

研究代表者氏名	大 村 幸 弘			研究組織	3 人	
所属機関・部局・職	財団法人中近東文化センター・学術局 主任研究員			所属機関所在地	三鷹市	
研究課題名	古代アナトリアの文化編年の再構築 - カマン・カレホユックにおける前 3-2 千年紀の文化編年 -					
研究の概要等	<p>中近東考古学研究の基本の一つとして文化編年の構築が挙げられる。これに関する発掘調査、研究は今日まで欧米が先導的役割を演じ、これをもとに古代中近東史は彼らの手によって描かれてきた。このプロジェクトの目的は、古代中近東世界と古代南東ヨーロッパの狭間、東西文明の接点に位置するアナトリアの文化編年を再構築、再検討、これまで未解明とされてきている問題点を明らかにすることにより、アナトリアが文化的、歴史的にどのような役割を演じたのか、さらにはヨーロッパ世界にどのような影響を与えたかと論じるところにある。これらを論じるために 1986 年以來、アナトリアのほぼ中央部に位置するカマン・カレホユックで考古学的発掘調査を行ってきている。本研究によって次の 5 点を解明したいと考えている。1) 前 2 千年紀から前 1 千年紀第 1 四半紀の暗黒時代、2) 鉄器の使用開始時期、3) ヒッタイト帝国の崩壊の原因、4) アッシリア植民地時代の終焉の原因、5) 印欧語族の移動時期</p>					
当該研究課題と関連の深い論文・著書（研究代表者のみ）	<p>Omura, Sachihito " Preliminary Report on the 15<sup>th</sup> Excavation Season atKaman-Kalehöyük, " Anatolian ArchaeologicalStudiesVol.X Kaman-Kalehöyük 10, 2001, pp-1-35.</p> <p>Omura, Sachihito " Preliminary Report on the 14<sup>th</sup> Excavation Season atKaman-Kalehöyük, " Anatolian ArchaeologicalStudiesVol.XKaman-Kalehöyük10,2000,pp.1-35.</p>					
研究期間	平成 1 4 年度 ~ 1 8 年度 ( 5 年間 )					
研究経費 ( 1 5 年度以降は内約額 )	平成 1 4 年度 千円 19,700	平成 1 5 年度 千円 17,200	平成 1 6 年度 千円 17,200	平成 1 7 年度 千円 17,200	平成 1 8 年度 千円 18,100	合計 千円 89,400